“彩の国”

市長　ダイオキシン問題については、狭山市でもとても重大な問題として扱っていまして、行政と知識人、市民、民間企業などが一体となった検討委員会を発足して活動を進めているところです。やはりこういった問題では、市民と行政だけが努力するのではなく、排出する側の対応というのも大切ですから、企業も巻き込んで調査、対応を進めていくことが解決につながるのだと思いますね。

知事　その通りだと思います。

4・女性登用について

市長　さて、知事は女性問題に関しても積極的に人材を受け入れるなど、大きく貢献されていらっしゃいますね。

知事　はい、審議会委員についても、女性の登用率30％という目標を掲げ、現在20％を超えるところまできました。これからも人材育成に努めていきますよ。職員の旧姓使用についてもすでに始まっているんですよ。

市長　私も旧姓使用に関しては進めていこうと思っています。また、審議会委員としての女性の登用率は県内3位の約20％で力を発揮していただいています。

知事　そうですか。それといつも思うのは、審議会などの顔ぶれに変化がないということですね。同じメンバーで話し合っても進展がないんだから、男女を問わずどんどん参加してもらうことが大切ですよ。そして、男女共同参画型社会の形成のためには、女性だけが参加して会議を開いてもよい結果が生まれませんね。男女の区別なく、いろいろな人が参加してこそ、本当に生きた政策となると思います。これは女性問題にかかわらず、全ての行政に通じることですね。

市長　そうですね。私も多くの人々の意見を尊重しながら、全ての人に通じる政策を進めなければと思っております。

5・埼玉新都心、防災基地にも

知事　さて、先程話に出ました新都心と並行して進めているのが、「さいたまスーパーアリーナ」と「県営スタジアム」です。これらは、21世紀を担う子どもたちにスポーツを通じて、夢と希望を与えられるような施設となる予定です。スーパーアリーナは、スポーツだけでなくコンサートや展示会などのイベントスペースとしても使用していきます。スタジアムは国内最大規模のサッカー専用競技場となり、2002年のワールドカップがここで開催されるのです。決勝戦を埼玉で行なえるとよいので、今一生懸命働きかけているところです。やはり「サッカー王国埼玉」ですから、子どもたちが喜び、自慢できるようなものをつくりたいですね。

市長　そうなればもっともっと埼玉が注目されるでしょうね。

知事　そうです。2002年のワールドカップ日韓大会は、埼玉を世界に広くアピールできるとともに、日韓の友好親善や世界の国々との親善を大いに深めることができる絶好の機会でもありますね。そしてスタジアムは、スポーツだけでなく大震災のときに避難場所、防災基地となるような機能も兼ね備えた施設にしたいと思っています。

市長　知事は防災対策面にも、大変力を注いでいらっしゃいますね。阪神・淡路大震災の際にヘリコプターでまっさきに現地にかけつけられたのが、とても印象に残っております。さすが知事だと感激いたしました。

6・子どもは社会の財産

市長　私は常々、「教育を通しての人類愛」ということについて考えているのですが、人類として最小限の教育を受けること、知る権利、そういったものをもっともっと多くの子どもたちに与えてあげたいんです。しかしながら、まだまだ世界各地で教育の機会に恵まれない子どもたちが多く存在するのも現実です。世界平和にも通じることなのですが、これを進めるために、世界中の人々が同日に節約をして、少しでも協力できたら・・・と思っています。

知事　そうした気持ちは大切です。私も子どもが大好きです。私のところに、よく子どもたちから手紙が届くんです。そういった手紙には、できるだけ電話などで返事をするようにしています。

市長　知事は「彩の国子どもフォーラム」という事業も行なっていらっしゃいますね。

知事　ええ。この事業は、小・中学生と私が一緒に、さまざまなテーマについて考え、よりよい彩の国をめざそうというもので、平成6年から開催しています。

市長　狭山市にもおいでいただきましたね。

知事　はい。よく覚えています。町田市長にも出席してもらいましたね。

狭山の子どもたちは環境や福祉に対してとてもよい意見を持っていました。

市長　それから、知事は子どもたちのための「マリンセミナー」も実施し、大変好評ですね。私はこのセミナーを、陸の上でもやってみてはどうかと思うんです。「青空フォーラム」などと題して、広い場所で何千人もの子どもたちが集まり、自由に意見交換をしたり、自分たちで創作などをするのもおもしろいと思いますが。

知事　それはよいアイデアですね。一度やってみましょうか。市長も言う通り、子どもたちは本当によい意見を出してくれるんです。彼らは、大人が思っている以上にふるさと埼玉のことを真剣に考え、その将来に限りない夢と希望を描いているんです。これは本当にうれしいことで、この子たちが21世紀に向けて大きく羽ばたけるような、愛すべき「ふるさと埼玉」にすることが私の重要な責務だと思っています。

市長　まったく同感です。本当に子どもは宝ですね。

7・活気あるまちとなるために

知事　ところで、私は最近ある人に、「埼玉県はとても活気があります」と言われたんです。埼玉県は115万人もの人が県外に通勤・通学しています。だから、私は将来、県内で「食・住・遊・学」が全てできるようにしていきたいと考えているんです。県全体を5ブロックに分けて、それぞれの地域を高度複合都市としていきたいですね。

市長　それは素晴らしいですね。埼玉県が活気づいているというのは、いろいろな企業の本社や支社などが県内に移ってきていることからもうかがえますね。狭山市でも、本社が移って来た企業があります。

知事　埼玉のよさが出てきているということでしょうね。

市長　そうですね。しかし、一方で埼玉県にはホテルなどの宿泊施設が少ないですね。そのためには、もっと観光資源を増やしていけるといいですね。

知事　埼玉の夜明けのために私たちももっと頑張らなくてはいけません。狭山市はとても緑が多く、自然に恵まれた市ですね。自然と都市の調和がうまくとれた市としてこれからも発展していってもらいたいものです。

8・「まちづくり」それぞれの思い

市長　今、入間川小学校の建て替えにともない県の予算で入間川河川の整備が進められておりますが、これについては知事に大変お世話になり感謝申し上げます。先程知事がおっしゃっていましたように、自然と調和のとれた施設とするために、風と太陽と水を利用した環境にやさしい施設にしたいと思っていますし、これは大変画期的な教育施設となると思います。

知事　なるほど。そういえば、狭山市には大きな公園もありましたね。

市長　はい、ハイドパークは知事のおかげで県営公園としての整備に向け、具体的に動きだしていまして、市民が本当に喜んでいます。これからも市民だけでなく大勢の県民に親しまれる公園になると思います。

知事　そうですか。それはよかった。

市長　私は狭山市民の市政への関心の高さや協力の強さを考えると、狭山市は21世紀の素晴らしいモデル都市となれると自信を持っているんです。そのために行政と市民が手を取り合い、心の通じ合うまち、温かみのあるまち、誰もが声をかけあえるまちにしたいと努力しています。

知事　私もその意見には大賛成ですね。これからは地方自治体が主役の時代です。埼玉県も狭山市も、みんなが安心していきいきと暮らせるまちとなるよう、お互い手を取り合って頑張っていきましょう。

市長　はい。精一杯やらせていただきたいと思います。

知事　今度ぜひ、狭山市にまたおじゃまして、素晴らしいまちづくりの進展状況を見せていただきたいですね。今日はどうもありがとう。

市長　ぜひおいでください。本日はお忙しいところ、有意義なお話をたくさんお伺いでき、感謝いたしております。本当にありがとうございました。

問い合わせ秘書広報課へ内線386